

後藤正治ノンフィクション集

受賞作家「後藤正治」、待望の著作集刊行！

昼間の相手を描く。それが流儀。

あくまで「昼間」を探りつつ、その人の本質に迫る。
後藤流のダンディズムで書き続けた30年間の集積。



版型／頁…文庫版・並製・750頁
税込価格…2520円

朝日新聞 聞き手・木元健二

「後藤さんの作品には「センチメンタル」との批評もあります。

「文学的ノンフィクション」と言われたことも。私
がノンフィクションでやってきたのは、その人の仕
事の部分、いわば一日のうちの昼間の8時間を描い
たものがほとんど。『牙』という作品の主人公は、タ
イガース時代の江夏豊。彼については刑事罰も受け
たし、別の側面を指摘する声もあった。ただ、この本
では、グラウンドにおける江夏豊を書きたかった。
圧倒的な強者・巨人に真正面から立ち向かっていっ
た姿に、自分たちが過ごした青春の日々を重ねたか
った。加えて主人公たちの家族とかプライベートと
か、影の部分を知ることには禁欲的であったと思ひ
ます。あくまで「昼間」を探りつつ、その人の本質に
迫りたいという流儀です。雑誌で沢木耕太郎さんと
対談しており、それは私の「ダンディズム」と言われ
ました。

京都新聞・八幡一男

後藤さんは「スポーツライタ
ー」と呼ばれることがある。1
980年に創刊されたスポー
ツ雑誌「Number(ナンバ
ー)」で活躍し、96年には定時制
高校のボクシング部を描いた
「リターンマッチ」で大宅壮一ノ
ンフィクション賞を受賞。また、
「スカウト」などプロ野球を舞
台にした作品も多いためだ。

■出発点は医科学分野

だが、後藤さんの書き手とし
ての出発点は医科学の分野だ。
著作集第1巻には、「人工心臓
に挑む」など初期の3作が収録
された。「空白の軌跡」では、あ
ら立ち遅れた日本の心臓移植
の空白の歳月を描き、「ふたつ
の生命」では心配移植を待つ女
性患者との絶望と希望、生と死
をつづっている。

今後、著作集には「甦る鼓動」
「咬ませ犬」「牙」江夏とその時
代」といった代表作や短編が収
録される。

後藤さんは「スポーツでも医
科学でも、僕の中では同じこと

をやってきた。人間を描くとい
う点で」と30年間の仕事を振り
返る。

■冬の時代というが

一方、日本のノンフィクショ
ン界には今、危機感が広がって
いる。「月刊現代」など雑誌の休
刊が相次ぎ、各賞でも有力な新
人が現れない。

「冬の時代と言われることを
否定はしない。では、今までに
春の時代があったかと考えると
「うーん」となる。日本でノン
フィクションという言葉が定
着して、たかだか30年。冬の時
代と言われるなら、私たち書き
手の力不足ではない」

後藤さんは書き続ける。06年
頃からは「女神像」を描く清貧
の画家・石井一男の取材を重ね
ている。

「言葉だったり、情景だつた
り、その人の本質がふつと浮か
び上がる瞬間がある」

書く対象には「探すのではな
く、出会う」のだと言う。

「心から書きたいと思う世界
に出会ってきたし、今も出会っ
ている」

既刊情報

- 第1巻 「空白の軌跡」・「ふたつ
の生命」・人工心臓に
挑む
- 第2巻 「遠いリング」
- 第3巻 「咬ませ犬」
- 第4巻 「リターンマッチ」
- 第5巻 「私だけの勲章」
- 第6巻 「スカウト」・「奪われぬ
もの」
- 第7巻 「牙」・不屈者

●後藤正治(ごとう・まさはる)

1946年京都市に生まれる。京都大学農学部卒業。
ノンフィクション作家となり、医学、スポーツ、人物などの分野で執筆を重ねる。
2007年より神戸夙川学院大学教授。
「空白の軌跡」(講談社文庫)で第四回潮ノンフィクション賞、
「遠いリング」(岩波現代文庫)で第12回講談社ノンフィクション賞、
「リターンマッチ」(文春文庫)で第26回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。
他の著者に、「牙」(講談社)、「復活」(文藝春秋)、「甦る鼓動」(岩波現代文庫)、「スカウト」(講談社文庫)、「奪われぬ
もの」(同)、「生体肝移植」(岩波新書)、「刻まれたシーン」(プレーンセンター)、「秋の季節」(プレーンセンター)
などがある。